

片岡信二名譽教授著作目録

著書

- 『リニア・プログラミング入門——理論と例解』(久武雅夫との共著), 白桃書房, 昭和32年11月.
『新版/リニア・プログラミング入門——理論と例解』(久武雅夫との共著), 白桃書房, 昭和38年3月.
『電子計算機』, 春秋社, 昭和43年10月.
『数理計画法』, 東洋経済新報社昭和46年7月.
『コンピューター入門 ハード・ソフト・システム』, 有斐閣, 昭和47年2月.

論文

- 「蛋白質のエネルギー準位について——Evans M. G., Gregory J. の論文の補い——」, 物性論研究, 37号, 昭和26年4月.
「高分子電解質の解離度について」, 物性論研究, 42号, 昭和26年9月.
「枝分れのある鎖状分子の統計」, 物性論研究, 66号, 昭和28年9月.
「Random Time Series の有限時間観測値と相関函数について」, 小林理学研究所報告, 昭和28年10月.
“On the Dissociation Constant of Polyelectrolyte”, J. Physical Society of Japan, Vol. 9 pp. 293—294, 1954.
「枝分れ高分子」, 高分子, Vol. 3, No. 5, 昭和29年5月.
「経済現象に於ける最大原理」, 一橋論叢, 第三十二卷第三号, pp. 230—241, 昭和29年3月.
「経済学に於ける数学的解析法と計算」, 一橋大学創立八十周年記念論文集上巻, pp. 129—156, 昭和30年9月.
「線型計算に於ける誤差の影響——レオンチェフ行列, 線型計画と誤差」, 一橋論叢, 第三十五卷第三号, pp. 251—256, 昭和31年3月.
「生産計画と輸送問題」, 標準化 Vol. 9, No. 7, pp. 536—538, 昭和31年7月.
「生産計画について——輸送問題およびゲーム論との関連——」, 一橋論叢, 第三十六卷第二号, pp. 74—81, 昭和31年8月.
「線型計画の技術的側面」, 山田雄三, 久武雅夫編『経済分析シンポジウム・経済活動分析』, 日本評論新社, 昭和32年4月.
「ゲーム理論と計画法」, 山田雄三, 久武雅夫編『経済分析シンポジウム・ゲーム理

- 論』, 同上, 昭和 32 年 4 月.
- 「条件付き極値問題の計算法について」一橋論叢, 第三十九卷第三号, pp. 31—55, 昭和 33 年 3 月.
- “A Method of Discrete Programming Problem”, *J. Operations Research Society of Japan*, Vol. 2, No. 1, pp. 27—42, 1958.
- “On Stochastic Programming I~III”, *Hitotsubashi J. of Arts and Sciences* Vol. 2, No. 1, pp. 23—55, 1962.
- 「システム・シミュレーションのためのコンパイラについて」情報処理 Vol. 3, No. 3, pp. 123—126, 昭和 37 年 5 月.
- 「オペレーションズ・リサーチの手法」, 経済セミナー, No. 77, 日本評論新社, pp. 37—43, 昭和 37 年 12 月.
- “A Stochastic Programming Model”, *Econometrica*, Vol. 31, No. 1~2, pp. 181—196, 1963.
- 「確率論的計画法について」, 一橋大学研究年報, 『自然科学研究 5』, pp. 39—57, 昭和 38 年 3 月.
- “On Stochastic Programming IV—A Note on a Generalized Stochastic Programming”, *Hitotsubashi J. of Arts and Sciences*, Vol. 3, No. 1 pp. 35—40, 1963.
- 「線型計画法における不確実性の問題」, 久武雅夫先生還暦記念論文集, 春秋社, pp. 26—37, 昭和 40 年 10 月.
- 「Stochastic Programming についての二, 三のノート」, 一橋論叢, 第五十六卷第二号, pp. 63—71, 昭和 41 年 8 月.
- “Stochastic Programming—Maximum Probability Model—”, *Hitotsubashi J. of Arts and Sciences*, Vol. 8, No. 1, pp. 51—59, 1967.
- 「確率論的計画法における確率最大化モデルについて」, 一橋大学研究年報, 『自然科学研究 10』, pp. 1—19, 昭和 43 年 3 月.
- 「コンピューターの原理と応用」, 内田忠夫他編『近代経済学講座・企業の計量分析』, 有斐閣昭和 43 年 9 月.
- 「確率論的計画法における certainty equivalence についての一考察」, 一橋論叢, 第六十三卷第一号, pp. 1—10, 昭和 45 年 1 月.
- “Methodology for Planning and Decision Making under Uncertainty”, *Jahrbuch der Wirtschaft Osteuropas*, Band 1, pp. 140—161, 1970.
- 「不確実性下の計画法に関する 2, 3 の問題」, 一橋論叢, 第六十五卷第三号, 昭和 46 年 3 月.
- “A Note on Statistical System Dynamics”, *Hitotsubashi J. of Arts and Sciences*, Vol. 13, No. 1, pp. 30—36, 1972.
- 「統計的システム論に関する一考察」, 一橋大学研究年報『経済研究 17』, pp. 69—88, 昭和 47 年 12 月.
- 「不確実性と最適化——(統計的システム論への一試論)」, 経済研究 24 卷 4 号, 昭和

48年10月.

「統計的システム論Ⅰ」一橋大学研究年報『自然科学研究17』, pp. 31—57, 昭和52年3月.

「統計的システム論Ⅱ」同上19, pp. 1—21, 昭和54年9月.

「統計的システム論Ⅲ」同上20, pp. 3—17, 昭和55年11月.

「所得分布曲線とエントロピー」, 一橋論叢, 第八十六巻第六号, pp. 48—64, 昭和56年6月.

「統計的システム論Ⅳ」, 一橋大学研究年報『自然科学研究22』, pp. 3—25, 昭和58年3月.

監訳

A. Ralston, H. S. Wilf, *Mathematical Methods for Digital Computers II*, John Wiley, 1967.

『電子計算機のための数学的方法Ⅱ』, 鹿島出版会, 昭和50年5月.



編集後記

本号は名誉教授片岡信二先生の退官記念号です、そして本号が実は、少くとも現在の編集方針のもとでは、一橋論叢最後の退官記念号となります。

さて片岡先生は昭和20年代始めに本学へ任官され、以来40年近くにわたり数学や計算機論の講義を通じ経済学部はもとより、大学全体の情報処理教育及び計算機を使用する研究活動の整備に大きく貢献されてこられました。先生の一橋における足跡は、ある意味で一橋の計算機の歴史そのものと言ってもいいでしょう。機種選定委員会委員、情報処理センター運営委員会委員長、そして情報処理センター長として、昭和31年に導入されたHIPAC 101から始まり、本格的なコンピュータであるFACOM・M-760/6に至るまで、機種選定及びソフトの整備・充実に大きく貢献されてきました。機械の大型化・高速化にとまない、もち論使用するコンピュータ言語も年々変わってきています。確か先生が著された「計算機論」(春秋社)という本にはHIPAC 101用のプログラムが例として載っていると聞いております。ほとんど機械語に近いものから現在主に使用されている種々のアプリケーション・パッケージまで、すべてをこなしながら研究・教育に携わってこられた先生の御苦勞には、あらためて感服いたしております。もち論先生の御活動は、まだ何年も続くわけですし、これからも我々に大きな助言を与えて下さると思っております。最後になりましたが、この場をお

借りし先生に感謝の意を表したいと思いません。(高橋一)

最終講義のまとめを是非特集号に載せて頂きたいと片岡先生をお願いしたところ、先生の快諾を得ることができた。先生が永年愛着をもって育成された一橋大学情報処理センターの一室で、最終講義は行なわれた。統計システム論からの所得分布に関する先生のご研究をまとめられたものである。この分野の先生のご研究に通じていなかったが、最終講義の内容には大変興味をそそられた。私自身も、一般均衡理論の立場からミクロ的集計の効果に関心を持ち、所得分布と集計の効果との関係に注意を払っていたからである。学部の片岡ゼミ出身としては、先生のこの方面のお仕事に気付かずにいたのは不覚であった。実は、研究者としての片岡先生には3つの顔があるように思う。第1は計算機論関係の研究、第2は数理計画法関係の研究、第3は統計物理学の視点からのシステム論の研究である。学生時代、我が国における創成期時代のコンピュータHIPAC 101を使って、先生からSIPによるプログラムを教えて頂き、大学祭の時には、簡単なゲームのプログラムやカレンダーなどを作成した。ゼミではこの他、Dantzigの線型計画法やFord-Fulkersonのネットワーク理論を学ぶ過程で、先生のこの方面における研究の成果にも接することができた。しかし、先生が物理学出身で、統計物理学に興味を持たれていること以外、第3の研究のご関心について私は知らなかった。収録された先生の最終講義から学んで、今後の研究に役立てたいと思っている。(山崎昭)